

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
坂町立坂小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	2	2	2	2	2	2	12	2	14

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	6	2	5	10	
理科	5	2	3	6	
理科	6	2	3	6	

授業時数 計 22 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 22 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	A	A	A	推進	推進	専科	A	B	A	専科	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	B	B	B	推進	推進	専科	B	B	A	専科	B	B	B
教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: C)	C	C	C	C	推進	専科	C	C	C	専科	C	C	C
5年 2組 (担任: D)	D	D	D	D	推進	専科	D	D	D	専科	D	D	D

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	19	A	6-2	体育	2.6	2.6	16	16
6-2	18	B	6-1	家庭科	1.6	1.6	15	16.6
5-1	30	C				0	22.6	22.6
5-2	30	D				0	22.6	22.6

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉	
①	授業作りにおいて直面する課題の解決について一人で悩むのではなく、積極的に他の教員と意見交換を行った。
②	授業の中で、積極的に友だちと考えを共有したり教え合ったりするなどの時間を計画的に毎時間設定した。
④	推進教員も担任の教員も担当する教科が少なくなるため、教材研究の時間が十分に確保できた。



〈成果〉	
①	・経験豊富な教員が相談にのったり、複数の教員で意見を出し合ったりすることで、授業の質が向上した。 ・教材研究をする上で、他学年及び中学校理科との系統性を意識しながら行うことができ、深い教材研究につながった。長期休業中に、次の学期で学習する単元の予備実験を行うことができた。
②	児童が協働的に学ぶことで、児童から「自分の考えが深まった。」「いろいろな意見を知ることができて嬉しい。」「いろいろな人とコミュニケーションがとれるようになった。」という前向きな意見があった。
④	学級担任からは、「担当教科が減ることで教員一人一人の負担が減り、余裕をもって児童対応することができた。」「教科の専門性を高めることができた。」という声があった。また、児童からは「専門の先生に教えてもらうことで理解が深まる。」「いろいろな先生と関わりがもてるので楽しい。」という前向きな意見が多くあった。

〈課題〉	
①	行事前などは時間割を組むのが大変だった。特に、理科は2時間続きで授業時間を確保したいため、時間割を組み替えるのに多くの教員と連携を図る必要があった。
⑤	欠席児童への学習面の補充が難しい。



〈対策〉	
①	行事の練習計画を早めに職員へ周知する。 行事やその他予定に対して見通しをもち、早めに教材研究や準備を行う。
⑤	担任と連携し、休憩時間等を活用する。